

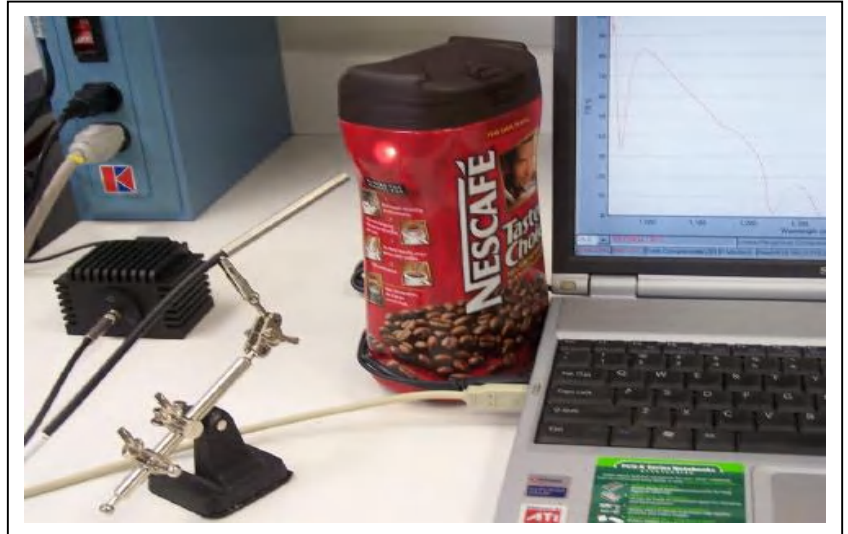
近赤外分光器による反射測定

BTC261(920-1700nm)及び BTC262(1100-2200nm)は、高感度・低ノイズの InGaAs アレー分光器です。S/N 比が非常に優れておりオンラインモニタなど長時間測定に最適です。光源やファイバを組み合わせ、あらゆる用途に柔軟に対応します。下記では、反射測定の使用例をご紹介します。

構成(各製品はオプションページ参照)

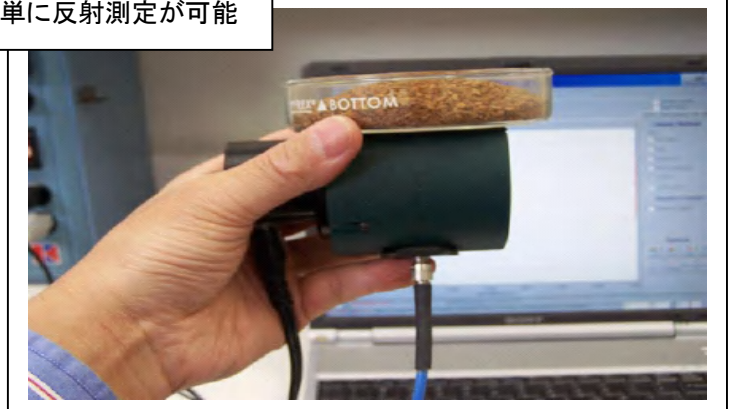
- 1 BTC261 分光器(920~1700nm 固定型)
- 2 タングステン・ハロゲン光源
- 3 反射測定用分岐ファイバ(2ポート・1プローブ型)
- 4 タングステン光源内蔵 積分球
- 5 ノートパソコン

反射測定の一例
プローブ端から光を射出し、
サンプルからの反射光を分光器に挿入

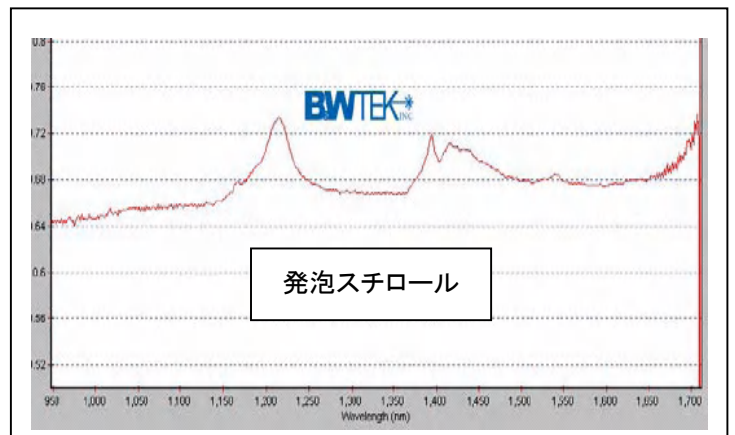
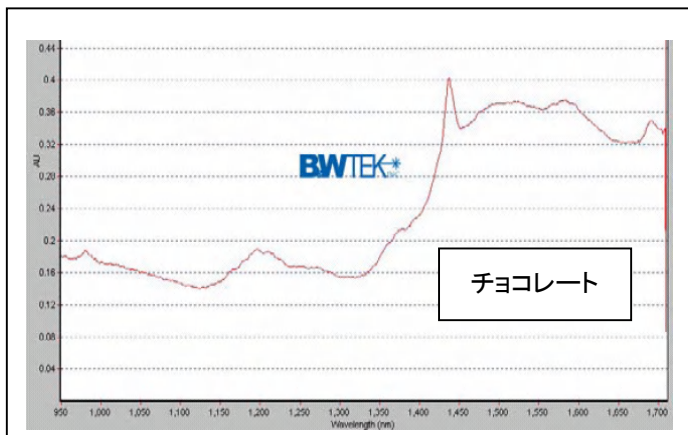


最初に、白色板など基準物質の反射光を測定し、次にサンプルの反射光を測定します。付属ソフトでは、「サンプルの反射光÷基準物質の反射光」を自動計算し、各波長の反射・吸収スペクトルを表示します。

光源内の積分球を使えば、簡単に反射測定が可能



ソフトウェアでは、下図のように、吸光度(単位 AU)や反射率(%)で測定結果を表示できます。



紫外・可視の分光器に取り替えれば、同じ構成で紫外・可視の反射・吸収測定が可能です。ご希望の用途や仕様に合わせて、ご提案できますので、お気軽にご相談ください。